

すちるな一ノ唯我論

財部靜治

我國ノ上古王朝式微ノ末中央政府ノ權力失墜シテヨリ地方ノ豪族崛起シ民衆各々ノ野性ヲ發揮シ屢々衆愚跋扈ノ社會ヲ實現セシメシハ歴史ノ訓ニル所ナリ露國中央集權ニ偏シ國民ノ自由特ニ言論ノ自由ヲ抑制スルコト甚シカリシカタメニ却ツテ幾多ノ危險思想家ヲ激發セシメシハソノ近世史ノ示セル所ナリ危險思想視セラルルモノ様々國內ニ發スルモ之ヲ容ルルノ氣宇海澗ナルト共ニ社會ニ質實剛健ノ思想瀰蔓シ能ク之ニ動かサルルコトナクンハ社稷ハ全キヲ得ヘシ英國カ多年ノ間大陸諸國ニ於テ危險人物視セラレ國內身ヲオク所ナキ迄ニ薄遇セラレシ幾多大思想家ノタメニ安全ナル避難所ヲ授ケツツ自國ハ晏如タリ國運益々隆々タリ得タルノ一事以テ之ヲ證スヘシ。予輩素ヨリ所謂實際經濟問題ヲ論スルヲソノ本分トスル者ニ非スト雖モ聊カ

時事ヲ管見シテ右ノ所感ヲ深クシツツアリシ際
 偶々用アリテすちあり・ぞむろ著政治學ヲ經キ
 ソノ卷首歐洲史ニ於テ個人ト團體ト交互ニソノ
 勢力ヲ消長セシメシ大變遷ノ跡ヲ瞥見セシ一節
 ヲ面白ク讀ミ就中前世紀中個人ノ力ヲ高論セシ
 思想家トシテにいちね一擧ケラルルト共ニまつ
 くす・すちるな一ノ名アルニ逢着シ思ハス自問
 セリまつくす・すちるな一トハソレ何人ソト、始
 メテ本大學ニ於テ經濟學ノ研究ニ着手シテヨリ
 歲ヲ閱スルコト十有七ソノ間コノ一思想家ヲ知
 ルニ至ラサリシコソ經濟學史ノ研究ヲ蔑視シ少
 クトモ學史上ノ目ボシキ思想家ニ注意ヲ注ク丈
 ケノ用意ヲ缺キシ餘弊ナレト我暗愚ヲ初メテ悟
 リツツ却リテ滑稽ヲ覺ヘ少シク詮議シテ得タル
 結果本誌ノ餘白ヲ借レルコトトナセルカ則チコ
 ノ小録ナリ。

II

偽名 Max Stirner ヲ署シテ一八四五年「唯我
 及其ノ所有物」Der Einzige und sein Eigentum
 2. Aufl. 1882 尙 Reclam ノ叢書中ニ收ム英譯トシテ The ego

and his Own, tr. by Steven T. Byington, 1913. アツ) ヲ
 公表シ後世ニ至リ個人主義の無政府主義者ニヨ
 リ同思想ノ一率先鼓吹者トシテ出色ヲ以テ推サ
 ルルニ至リシハ南獨ばゝろス・ノ出 Johann
 Kaspar Schmidt (一八〇六一五六年) ナリ一八二六年ヨ
 リ一八八年迄伯林ニ於テ哲學及神學ヲ修メ次イテ一八二九年迄
 ちらんげんニ學フ同年卒業ヲ中絶シテ獨逸國內ヲ漫遊セル後一
 八三二年ニ至ル迄きゆーにひすべるぐ及くるむニ代ル住メ
 リソノ後再ヒ伯林ニ出テテ學ヒ一八三五年ニハ中學校教員檢定
 試験ニ合格シタルモ任命チ見ルニ至ラス一八三九年ニ至リテ伯
 林ノ一女學校教員トナリ四年ニ至リテソノ職ヲ退キシモ死ニ
 至ル迄伯林ニ住ミ其ノ前記偽名又ハ無名ニテ哲學上ノ述作ヲ
 ナセリ。同シク無政府主義ノ互慰ヲ以テ推サルル
 佛人ぶるーどんハソノ初メ社會主義者タリシモ
 すちるな一ハ個人主義者タリ否其ノ無政府主義
 ハ個人主義ヲ最モ極端ニ貫ケルモノニ外ナラサ
 リキ何等ノ義務アルヲ許サス何等ノ宗教的眞理
 モ何等ノ有限權利ヲモ認メサリキ各人ノタメニ
 言行ノ原道タルヘキハ各自ノ利益、幸福ニ存ス
 ヘキナリトハソノ所見ナリ人ハ各自ソノ無羈束
 利己ヲ逐フノ狀アルヘク何人モ他人ノタメニ規

定ラ設ケ依リテソノ人ヲ羈束シソノ行動ヲ掣肘スヘキ權利ヲ有スルコトナシ故ニ各種ノ統治ハ排棄スヘク從ヒテ又國家モ廢スヘシ惟フニ人ハ親睦ナル共同生活ヲ結フヘキ運命ヲ有スヘキモ一利己主義者會 *Der Verein von Egoisten* タル形式ニ於テ然リ協議ニ基ツク一團體タルヘキニ非スシテ人ノ任意協同體タルヘシソノ會ニ入ルカタメンノ身ヲ服從ノ地位ニ置クコト共產主義ノ社會ニ於ケルカ如クナルヘキニアラス寧ロ一ニ自己ノ目的ヨリソノ會ヲ使用スルカ如クナルヘキナリ各人ハソノ會ヲカク使用スル範圍カク使用スル間ニ限り之ニ附和スヘシト説ク。すちるな一ハ又現在ノ如キ所有權ヲ以テ人身自由ヲ妨クルモノトシテ全ク斥ケ各人ハ克クソノ力アリテ取り得ヘキヲ我物トスヘシ各人ハ他人カ自己ノ手ヨリ奪ヒ得サルモノヲソノ所有物トスカクテ各人ハ自ラ押領セル物ヲソノ所有物トスル權利アリト唱フ。カク所有權ハ廢サルヘキニアラスサレト又決シテ平分サルヘキニアラス一人ニ大用アルモノ他人必スシモ之ヲ要セス一ノ他

人ヲシテ満足セシムヘキモノモ自分ニハ丸デ不足ナルルコトアルヘシ從ヒテ我物トナシ得ル丈ケノ物ハ自分トシテ持ツノ要アリカクテ會トシテハ各個人ノタメニソノ所有權ヲ安全ナラシムルノ途ヲ講スルト共ニ寧ロ公物トスルヲ可トスヘキ物ハ之ヲ各個人ヨリ奪フノ途ヲ講シカクテ公物モ亦完備スルカ如クシ向ケ得ヘシ。而シテソノ新事情ニ變轉セシムルノ策ハ一揆暴力ニ存スルノミ世ニ犯罪トイフハ各個人ノ權力ヲ指シテ謂フナリ各個人ニシテ國家ハ自己ノ上ニ位スルニアラス自己寧ロ國家ノ上ニ立ツトノ意見ヲ探ルノ一事アル限リソノ個人トシテ國家ノ權力ヲ破ルノ策犯罪ニ存スヘキノミト極論ス。

「所有權問題ハ社會主義者及共產主義者ノ考フルカ如ク溫和ニ解決サレ得ヘキニ非ス萬人ニ對スル萬人ノ鬭爭ニヨリ解決スヘキノミ」予ハ何等ノ行動ニ出ツルコトヲモ邊巡スル者ニアラスカクスルコトニ付不信心、不道德、法律違犯アリトスルノ一精神ヲ挿マサルハ尊僧ばにふあちうすカ神木櫛ノ伐採ニ躊躇セサリシト異ルナ

ケレハナリ」教會及國家ハ生殺ノ權力ヲソノ手ニ留保セルモ予ハコノ權力ヲモ亦我物ト名ツク」ト言フカ如キ激越ノ大言書中到ル時ニ滿ツ。

三

看ルヘシ氏ノ説ハ自我主義ヲ以テ世ヲ律セシメントスル諸説中最モ猛烈ナルモノノ一トシテソノ目的ヨリスルモ之ヲ達セントスル手段ヨリスルモ無遠慮ニシテ又極端ナリシヲ此説ヲ奉スルトキハ之ニ刺戟セラレ犯罪ヲモ亦犯スニ至ルヘキハ親易キ所ナルカ實際上ニハコノ著書ニヨリカカル影響ヲ生セス否一般ニ世ヲ動かスコト少カリシハ之ヨリ先キ約五十年前英國ニ於テ政治的正義ニ關スル一書 *An Enquiry concerning Political Justice and its Influence on Morals and Happiness*, 1793 ヲ著ハン他ノ觀點ヨリ夙ニ無政府論ヲ唱ヘシ英僧 *William Godwin* 所説ト異ルコトナカリキ蓋シソノ説ク所全ク非實行的ナリシヨリ氏ハ後世ニ至ル迄殆ント世ニ忘レラレ他ノ方面ヨリ説カレシ無政府主義カ世ニ弘メラルルコト漸ク多キニ至リ始メテソノ著書アリシ

コトヲ想起セラレ讀誦評論ノ的トナリシ事情アレハナリソノ外又ソノ著書ハ通俗ヲ期シタルモノニ非スシテ割合ニ難解ナリ。

予ちるな一ハシカスルノ要アル *Sein müssen* モノヲ全ク認メス從ヒテ彼ニ國家並ニ所有權ニ關スル一學説アリトスヘキヤ否ヤ既ニ疑キキヲ得ス乃チ氏ハ議セリ「人々ハ現ニシカアルヘク *Sein sollen* 又ハシカアリ得ヘキ *Sein können* 者トシテ世ニアリ、人々トシテシカアルヘシトスヘキモノ果シテ何ソ、ソハ夫等ノ人々カアリ得ヘキモノ以上タラサルハ確カナリ、然ラハ彼等カアリ得ヘキモノハ何タルカ、ソハ恰モ亦彼等カアリ得ヘキモノ以上タラス、詳言スレハ彼等カ彼等タル能力、力ヲ有スル以上タラス」、「人ニ何等ノ本分アルコトナシ、彼ハ何等ノ職分 *Aufgabe* 何等ノ使命 *Bestimmung* ヲ有スルコトナシ、コハ一植物又ハ一野獸カ一本分ヲ有セサルト異ルナシ、花ハ花咲キ散ラントスルノ職分ヲ盡スニ非スシテ、宇宙ニソノ全力ヲ施シソノ力ノ及ノ限リ宇宙ノ物ヲ享受シ消耗セントス、詳言スレ

ハ花トシテソノ身ニ收メ又宿シ得ヘキ丈ケノ地味、空氣、日光ヲ攝取ス」サレト花ノ力ヲ以テ人ノ力ニ比スレハ微力ナリ、人ノ力ハ一旦之ヲ施サハ宇宙ニソノ威ヲ振フコト花ニ比シテ遙カニ大ナラン、カク人ハ一本分ヲ有セスシテ諸力ヲ有シ、ソノ力アル所ソノ力ハ表現ス、蓋シ力ノ存在ハ一ニソノ表現ニアリ、之ヲ表示セス無爲ヲ續ケンカ、カノ一刻ニテモ靜止セスル生存ヲ以テ、最早ヤ生存視スヘカラサルカ如ク、力視シ難キコトアレハナリ、カクテ人ニ向ヒテ叫ヒ得ヘケン汝ノ力ヲ用キヨト、而シテコノ命令ヲ以テセハ人ハソノ力ヲ用ウルコトソノ本分ナリトスルノ意ナリト解シ得ヘキカ如キモンハ然ラス、寧ロ各人ハ事實上ソノ力ヲ用キツツ之ヲソノ本分ト思フコトナシ、各人ハ各瞬間ニ持テル丈ケノ力ヲ使用ス」ト。

否すちるな一ハ實ニ真理ナルモノ存スルヲ全ク認メスシテ曰ク「真理ハ文句ナリ話ス仕方ナリ言葉ナリ (logos) 之ヲ組合セ列伍ニ排列セルモノ論理、科學、哲學ナリ」世ニハ權利ナク自

由ナク人道トイフカ如キコトモナク真理モ亦存セス、是等ノモノ予カ而前ニ嚴然トシテ存シ予ヲ屈服セシムルコトナシ」人カ人タルノ理由ノタメニソノ生命ソノ力ヲ捧クヘキ真理一ツニテモ存ストセンカ、彼ハ一ノ規則、統治、法律等ニ屈服セラレ一ノ奴僕タルニ至ルヘシ」汝ニシテ真理ヲ信スル限リ汝ハ未タ汝ヲ信セス、一ノ給仕人タリ一ノ信心家ナリ、汝ノミ真理ナリ、否寧ロ謂フハ可ナリ、汝ハ真理以上ナリ汝ノ前ニ全ク何物モナシト」。

試ミニ右ノ拔萃ニ本ツキ極端ナル論斷ヲ下サンカすちるな一ノ著書ハ一ノ自己主張ニ過キス弘ク容レラレンコトヲ望ムノ資格ナキ思想ノ一表白ト謂フヘシソノ著書中すちるな一ハ自ら眞ナリト考ヘ誤レル今ノ真理ニ代ルヘキ眞理トスヘキモノヲ告ケントセスソノ意見上吾人トシテナスノ要アルモノヲ告ケントセスソノ思想ノ演技ヲ見物セシムルノ一便宜ヲ授クルノミ。素ヨリ彼レ自身ハ此結論ヲ下セルコトナシすちるな一考フルカ如キ「我」ヲ説クコト多キ著書ノ文態

ヨリ推スモ亦彼カカカル結論ヲ下スヘクモ思ハ
 レス現ニ彼ハ「我」アルコトヲ解セス世ノ毀譽褒
 貶以上ニ脱スル能ハス「單ニ人」タランコトノ
 ミ望メル者ハ又盲目ナリ」ト説キ或ハ現所有權
 制ヲ非トシシノ制度存スル所「予ハ予ノ要スル
 次ケノ物ヲ我物トナシ難シ」トスルカ如キ「誤レ
 ル意識」ヲ生ストシテ自己主張ノ所有權制發言
 權ヲ留保シ或ハ靈魂ノ古信念ヲ罵リテ自我ニ覺
 ルヘキヲ説キ或ハ「刑罰跡ヲ絶チ人ヲ満足ナラ
 シムルコト之ニ代ルノ要アリ」ト唱へ、人ハ「人
 人ニ對シテ自衛スヘシ」ト説キ或ハ又「現代ノ
 門ニハあほろの汝自身ニ省ミヨトノ文句掲ケラ
 レスシテ汝ヲ利用セヨ Verwerthe Dich トノ句
 アリ」ト唱フルヲ以テ考フルニすちるなゝ自身
 ノ積リニテハンノ著作當時ノ心的狀態ヲ知ラシ
 ムルノミナラス彼レ自ラ眞ナリトシシカスルノ
 要アリト思ヘルモノヲソノ著書ヲ通シテ吾人ニ
 告クルノ意アリシナルヘシ而モ亦彼カ刺戟ニ富
 メル語句ヲ陳チテ説ケル所個人ノ釋放及破壞ニ
 偏シ建設ニ粗ナルノ嫌ハ免レス且又すちるなゝ

ハ法律、國家及財産ニ關スルソノ所説ヲ以テ無
 政府主義ト呼ハス寧ロ氏カ論駁セル政治自由主
 義ニ冠スルニ無政府主義的ナリトノ形容詞ヲ以
 テセリ。

四

すちるなゝ所説ノ各部ニツキテハ尙議スヘキ
 モノアリ特ニソノ無政府説ノ如キノ他ノ諸無
 政府主義ト等シク現代國家論ニ於テ一般ニ認メ
 ラルル眞理乃チ國家ナクシテ全ク開化ナシトス
 ルノ説ニ反スル空論タリ少クトモ萬氏心理ノ一
 大劇變ヲ期待シ得サル限リハ然リ。這般ノ理由
 ニヨリソノ所説ハ探ルニ足ラス單ニ「見物」ノ一
 對象トシテ弄フヘシトスルモ危險トシテ之ヲ殞
 斥スル必要ハ更ニナシ特ニソノ著書中ニハ諸先
 驅社會主義者、無政府主義者ノ著書同様現代ノ
 通弊指摘上の中シテ痛快ヲ極ムルモノ尠カラサ
 ルニ於テオヤ、殊ニ又我邦ノ先哲本居翁カ和紙
 小本二十六枚ノ大著直毘靈中翁カ當時一部ノ儒
 學者獨立研究心乏シキノ弊ニ憤慨シ翁獨特ノ見
 地ヨリ下サレタル大斷案トシテ「古の大御世に

は道といふ言葉もさらになかりき其はたゞ物に
ゆく道こそ有りけれ、物のことわりあるべきす
べ、萬の教へごとをしも何の道くれの道といふ
ことは異國のざたなり」トノ説アルヲ想起シ今
日政治又ハ經濟ノ研究上普通ニ定説ト認メラレ
居ルモノノ中ニモ評論是正ノ要ニ富ムモノ多カ
ルヘシト想ヒ及ホス際予輩ハ更ニ研究ヲ續ケす
ちるなりノ所説ヲソノ他諸無政府主義者ノ所説
ト共ニ比較審議シ思索ノ料ニ供セントスル念ナ
キ能ハス惟フニソノ結果理想的無政府主義ハ却
リテ吾人ヲシテ國家必要ナリトノ信念ヲ確カメ
又深刻ナラシムルノ最終理由ヲ明カニシ得タリ
トセンカソノ理由ハ恰モ亦同主義ヲ重ンセシム
ルノ一大事由タルニ至ラン。今ヤ我國言論ニ對
スル官憲ノ壓迫急ナリトノ聲アルニ拘ハラス民
間ニハ必スシモ根蒂アリ徹底セル政治經濟思想
昌ンニ起リ居ル様ニモ思ハレス現今ソノ弊ナシ
トセサル様ニモ思ハルルカ如ク徒ラニ民本自主
ヲ掲ケテ義務、犧牲、秩序ノ重ンスヘキヲ忘レ民
心輕佻誇負ノ風ニ阿附シ否之ヲ煽動セントスル

ハ人格ヲ尊重シ個性ヲ暢達セシムルノ必要ヲ忘
レ據我ナキ沒我ヲ説キテ封建的犧牲ノミヲ強要
セントスルカ如ク見ユル一部ノ所説ト等シク大
思想視シ兼ヌヘシ予輩ハカク觀シツツ將來ニ於
ケル國運大發展ノ最大動力ヲ以テ思想ノ振興貧
弱ナル思想ノ勢力減滅ニ存スト考フル者ナリ果
セル哉賢明ナル農相ハ本年十月十六日工業學校
工業徒弟有志校長會議ニ臨ミ訓示演説ヲ試ミラ
レシ内ニ産業興隆ニハ富ノ積集(無論ソノ分配適當ナ
前提トセラルルコトヲ確信ス)固ヨリ必要ナリト雖人世
最モ必要ナルハ高尙雄大ナル思想ニアル」コト
ヲ説カレタリト謂ヒ(大阪朝日新聞一二八四三號參照)
内務省ハ又圖書檢閱制ヲ改善擴張シテ思想ノ人
爲淘汰ヲ行ヒ之カ振興ニ盡サルト謂フ共ニ美事
ナリ退イテ民間ヲ察スルニ洛陽ノ紙價益々高キ
ニ拘ハラス政治經濟評論雜誌ノ新刊ヲ見ルコト
雨後ノ筍ノ如シ惟フニ官民ノ努力茲ニ期セスシ
テ相待チ洗練サレタル大思想ノ勃興トナリ予輩
ノ立言ノ如キ時世ニ疎キ一學究ノ警語視サレン
コトヲ期待シツツ圖ラス座右ヲ顧ミレハ披ケル

雜錄 獨逸ノ戰後海運策

儘ノ法帖顏眞卿書多寶塔碑中圓頓深入、眞淨無
瑕ノ一句我ヲ笑フニ似タリ